

## 研 究

乳児をもつ父親の育児・家事行動と子どもの気質  
および育児困難感との関連小林佐知子<sup>1)</sup>, 森山 雅子<sup>2)</sup>, 長谷川有香<sup>3)</sup>  
丸山笑里佳<sup>4)</sup>, 小山 里織<sup>5)</sup>

## 〔論文要旨〕

父親の育児・家事行動と子どもの気質、育児困難感との関連を検討した。生後4か月の第1子をもつ父母31組を対象に、子どもの気質的な扱いにくさ、育児困難感、育児・家事行動を調べた。その結果、父親が感じる子どもの気質的な扱いにくさと育児・家事行動は関連しなかったが、母親が感じる気質的な扱いにくさと父親の家事行動には正の関連がみられた。また、育児困難感と育児・家事行動は関連しないが、育児困難感と気質の間に関連がみられた。これらの結果から、生後4か月での父親の育児・家事行動は、父親自身が感じる気質的な扱いにくさや育児困難感とは独立しているが、母親が気質的な扱いにくさを感じる状況では父親は家事行動を多く行うことが示唆された。

Key words : 育児行動, 家事行動, 気質, 育児困難感, 父親

## I. 問題と目的

父親の育児・家事行動は、子どもの社会性<sup>1)</sup>や夫婦関係<sup>2,3)</sup>など、家族全体の発達において重要な役割を果たす。Doherty らによれば<sup>4)</sup>、父親の育児参加は精神的健康や性格などの親自身の心理的な特徴や、気質など子どもの特徴、雇用状態やサポートなどの社会的要因、および夫婦関係によって規定される。本研究では子どもの気質と育児困難感に焦点を当て、育児・家事行動との関連性を検討した。

気質は発達初期にみられる生得的な行動特徴である。Thomas らによれば<sup>5,6)</sup>、子どもの行動特徴には9つのカテゴリーがあり、それらの組み合わせにより「扱

いにくい子ども (difficult children)」、「扱いやすい子ども (easy children)」、「エンジンがかかりにくい子ども (slow-to-warm-up children)」とそれ以外の気質タイプに分類される。このうち、気質的に扱いにくい子どもをもつ母親は育児ストレスが高いことが示されている<sup>7)</sup>。気質的な扱いにくさは、生理的リズムの不規則さや新奇的な刺激を回避しようとする傾向、環境変化への慣れにくさ、機嫌が悪くなりやすいこと等が特徴とされ<sup>6)</sup>、そのような子どもをもつ親は日常的に子育てに関するストレスを抱えやすいと考えられる。

それでは、子どもの気質的な扱いにくさは育児・家事のような日常の行動にどのように関連するのである

The Relationship between Child-care Behavior, Housework Behavior, Infant Temperaments,  
and the Feeling of Difficulty Associated with Child Rearing among Fathers Caring Babies  
Sachiko KOBAYASHI, Masako MORIYAMA, Yuka HASEGAWA, Erika MARUYAMA, Saori KOYAMA

[2283]

受付 10. 9.28

採用 12. 2. 1

1) 大垣女子短期大学総合教育センター (研究職/臨床心理士)

2) 愛知江南短期大学現代幼児学科 (研究職)

3) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 (大学院生)

4) 名古屋医療センター (臨床心理士/研究職)

5) 前 県立広島大学保健福祉学部 (助産師/研究職)

別刷請求先: 小林佐知子 大垣女子短期大学総合教育センター 〒503-8554 岐阜県大垣市西之川町1-109

Tel : 0584-81-6811 Fax : 0584-81-6818

うか。気質的に扱いにくい子どもがいると、父親の育児・家事行動量はある程度制限されることが予想される。先行研究によると、気質的に“育てやすい”子どもをもつ父親は育児行動が多いとされる<sup>8,9)</sup>。また、本保らによると<sup>10)</sup>、母親の感じる子どもの育てにくさと、父親の育児・家事行動は負の関連をすることが示されている。気質的に扱いにくい子どもは父親の育児・家事行動を低減するのかもしれない。しかし、他方では子どもの気質は育児行動と直接的には関連しないという指摘もある<sup>11)</sup>。子どもの気質と父親の育児・家事行動との関連について明らかにしていく必要があると考えられる。

子どもの気質以外に、本研究では育児困難感も取り上げる。育児困難感とは、育児に対する自信のなさや心配、子どもへのネガティブな感情などを反映した育児不安心性である<sup>12)</sup>。育児についての煩わしさやイライラを感じることが少ない父親ほど遊びに積極的に関わることが指摘されている<sup>13)</sup>。育児に対する不安や否定感が高い父親は、育児行動にも消極的であることが予想される。

以上のことから、本研究では乳児をもつ父親の育児・家事行動と子どもの気質、育児困難感との関連を検討する。対象には母親も含めることとする。母親のデータを加えることにより、各要因における父母間の比較についても検討することができると考えられる。

II. 方 法

1. 調査対象および方法

生後4か月の乳児をもつ父親・母親を対象とした。妊娠期から出産4か月後にかけての父親の育児行動に関する縦断的研究<sup>14)</sup>のデータの一部を使用した。A県内のB・C・D保健センターの産前教室にて第1子出産予定の夫婦に調査の依頼をし、同意が得られた夫婦62組に対して妊娠期、出産1か月後、2か月後、4か月後に郵送法にて質問紙の配布・回収を行った。調査の依頼をする際には、調査の趣旨と、個人が特定されないこと、研究以外の目的には使用されないこと等を口頭および文書にて説明した。調査時期は2008年7月～2009年6月であった。このうち、本研究では出産4か月後の調査に回答があった31組を分析対象とした。対象者の属性は表1のとおりである。なお、本研究は県立広島大学保健福祉学部の倫理委員会の承認を得て実施した。

表1 対象者の属性

|             | 父 親          | 母 親          |
|-------------|--------------|--------------|
| 年 齢         | 31.9歳(25～50) | 31.1歳(21～36) |
| 家族形態        |              |              |
| 核家族         | 27組          | —            |
| 拡大家族        | 3組           | —            |
| 不 明         | 1組           | —            |
| 就労状況        |              |              |
| 無職(専業主婦・主夫) |              | 18名          |
| 就業(フルタイム)   | 31名          |              |
| 就業(パートタイム)  |              | 1名           |
| 育児休暇中       |              | 11名          |
| 不 明         |              | 1名           |
| 職 種         |              |              |
| 専門的・技術的職業   | 12名          | 6名           |
| 管理的職業       |              | 1名           |
| 事務的職業       | 8名           | 3名           |
| サービス・販売職業   | 1名           | 1名           |
| 技能的・労務的職業   | 7名           |              |
| 保安職業        | 1名           |              |
| 自営業         | 2名           |              |
| その他         |              | 1名           |
| 労働時間(一日当たり) | 9.8時間(7～13)  | —            |

2. 調査内容

(1) 育児・家事行動

育児行動について9項目、家事行動について8項目を作成した。育児行動は、赤ちゃんに対して「抱く」、「寝かしつける」、「お風呂に入れる(沐浴する)」、「げっぷをさせる」、「おむつ(おしっこ)を替える」、「おむつ(うんち)を替える」、「着替えをする」、「遊び相手をする」、「お守りをする」から構成される。平日の昼間と夜間、休日の昼間と夜間についてそれぞれ頻度を尋ね、合計数を育児行動得点とした。家事行動は「トイレ掃除」、「風呂掃除」、「トイレ・風呂以外の掃除」、「買い物(食料品)」、「食事のしたく」、「食器洗い」、「洗濯(干す)」、「洗濯(取り入れる)」から構成される。1週間のうち、対象者が何回行っているか頻度を尋ね、合計数を家事得点とした。

(2) 子どもの気質

Revised Infant Temperament Questionnaire (RITQ) 日本語版<sup>15)</sup>から、「接近と回避」(初めての物事に回避的な反応をすること)、「順応性」(環境が変化したときの慣れにくさ)、「気分の質」(泣きやぐずりの多さ)の3次元を用いた。これら3次元は、乳児期の子どもの気質的な扱いにくさを測定するものとして有効とされる<sup>7)</sup>。水野ら<sup>7)</sup>にならい、味覚に関する項目を除外した22項目を使用した(表2)。得点が高

いほど、子どもの気質的な扱いにくさを感じていることになる。「ほとんどいつも〜である」から「ほとんど〜でない」の6件法で回答を求めた。

(3) 育児困難感

川井ら<sup>12)</sup>の育児困難感尺度をもとに12項目を作成した。「育児に自信が持てない」、「子どものことでどうしたらよいかわからない」、「子どものことは理解できる(R)」、「どのようにしついたらよいかわからない」、「父親(母親)として不適格と感じる」、「子育てに困難を感じる」、「子どもをうまく育てている(R)」、「育児についていろいろ心配なことがある(R)」、「子どものことが煩わしくてイライラする」、「子どもを虐待しているのではないかと思う」、「子どもをかわいと思えないことがある」、「子どもに八つ当たりしては、反省して落ち込む」の12項目から構成される。「はい」から「いいえ」の4件法で回答を求めた。

以上の尺度はすべて父親・母親の双方各々に実施した。

3. 分析方法

分析には、統計処理用ソフトSPSS11.5Jを使用した。父母間の比較には Mann-Whitney の U 検定を、尺度間の相関について Spearman の順位相関係数を算出した。

Ⅲ. 結 果

1. 各変数の基礎統計量

各変数の平均値と標準偏差値を表3に示す。育児行動、家事行動は父親と母親間で差異がみられ、いずれも母親の方が多かった。平日の昼間・夜間と休日の昼間・夜間に分けて差異を調べると、休日の夜間を除き、父親より母親の方が多かった。気質と育児困難感には差異がみられなかった。

2. 各変数の相関

父親を対象とする各変数の相関係数を表4に示す。扱いにくい子どもの気質を構成する3つの特徴(「接近と回避」、「順応性」、「気分の質」)はそれぞれ正の関連をしており、3つの気質的特徴のうちどれか1つが評価されると、他の特徴も評価されやすいことが示された。育児困難感と「気分の質」との間には正の相関がみられ、「気分の質」を多く認知する父親ほど育児困難感が高かった。育児・家事行動と気質および育児困難感との間には関連がみられなかった。次に、母親を対象とする相関係数を表5に示す。父親と同様に、3つの子どもの気質はそれぞれ正の関連をしていた。

表2 気質尺度項目

|       |                                             |
|-------|---------------------------------------------|
| 接近と回避 |                                             |
| 1     | よその子に初めて会った時は、しりごみする(顔をそむける、母親にしがみつく)       |
| 2     | 食べさせたり飲ませたりする時の場所や姿勢、あるいは人が変わっても平気である(R)    |
| 3     | 初めての場所(初めて行った店や家)では、最初の数分間は落ち着かず、機嫌が悪い      |
| 4     | 自分の家では知らない人がそばに来て、最初から平気である(R)              |
| 5     | いつもと違った場所で寝かせようとすると、最初は嫌がる(泣く、もがく)          |
| 6     | 医者にみてもらう時、はじめは平気である(ほほえむ、クックと笑ったりする)(R)     |
| 7     | 初めてされることは、すべて最初は嫌がる(初めての散髪、初めての薬など)         |
| 順応性   |                                             |
| 8     | 食事のスケジュール(予定時刻)を1時間以上変えると、2日たってもそれに慣れない     |
| 9     | 髪をとかす、顔を洗うなどの毎日されることは、どんな時でも嫌がらずにさせる(R)     |
| 10    | 新しい場所(家・店・遊び場)に慣れるのに、10分もかからない(R)           |
| 11    | 寝る時刻や場所が変わっても、1日か2日で慣れて、よく寝るようになる(R)        |
| 12    | 大きな音(工事の音、犬のほえ声など)は、その日何回か聞いても慣れない          |
| 13    | 知らない人に会った時は、15分たっても様子をうかがったり、怖がったりしている      |
| 14    | 嫌がらずに爪を切らせる(R)                              |
| 気分の質  |                                             |
| 15    | 目を覚ました時や、寝入るときにぐずる(むずがったり、泣いたりする)           |
| 16    | おむつを替えてもらう時や服を着せてもらう時、うれしそうな声を出す(R)         |
| 17    | 慣れない場所(知人の家・店)に、初めて行った時でも機嫌がよい(ほほえむ、笑う)(R)  |
| 18    | 髪をとかしたり、顔を洗ったりしてもらう間、機嫌よくしている(R)            |
| 19    | 遊んでいる時、ひとりにされると泣く                           |
| 20    | 飲んだり食べたりする途中途中で、満足そうにしている(ほほえむ、クックと声を出す)(R) |
| 21    | ちょっとぐらい痛くしても、相変わらず機嫌がよい、平気にしている(R)          |
| 22    | 医者に診察してもらっている間、ぐずったり泣いたりする                  |

R：逆転項目

表3 各変数の基礎統計量

|       | 父親    |       |     |     | 母親    |       |     |     | 有意差  |
|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|-----|-----|------|
|       | M     | SD    | 最小値 | 最大値 | M     | SD    | 最小値 | 最大値 |      |
| 育児行動  |       |       |     |     |       |       |     |     |      |
| 全体    | 35.16 | 21.00 | 10  | 110 | 79.95 | 20.98 | 38  | 125 | ***  |
| 平日昼   | 0.68  | 1.66  | 0   | 6   | 30.43 | 9.45  | 16  | 54  | ***  |
| 平日夜   | 8.65  | 5.86  | 0   | 28  | 14.33 | 7.21  | 0   | 28  | **   |
| 休日昼   | 14.22 | 10.29 | 3   | 54  | 22.33 | 7.72  | 6   | 38  | ***  |
| 休日夜   | 11.48 | 6.53  | 4   | 30  | 12.06 | 6.50  | 0   | 28  | n.s. |
| 家事行動  | 11.22 | 6.39  | 2   | 28  | 60.78 | 6.84  | 45  | 74  | ***  |
| 気質    |       |       |     |     |       |       |     |     |      |
| 接近と回避 | 15.41 | 6.63  | 7   | 33  | 16.56 | 7.22  | 7   | 30  | n.s. |
| 順応性   | 17.65 | 5.08  | 10  | 27  | 17.48 | 5.76  | 7   | 28  | n.s. |
| 気分の質  | 26.04 | 5.41  | 13  | 35  | 25.04 | 6.38  | 13  | 41  | n.s. |
| 育児困難感 | 22.69 | 6.71  | 13  | 40  | 23.43 | 6.02  | 12  | 35  | n.s. |

\*\* :  $p < 0.01$     \*\*\* :  $p < 0.001$     育児行動は一日当たりの回数を表す。  
Mann-Whitney の U 検定    家事行動は一週間当たりの回数を表す。

表4 各変数の相関（父親）

|       | 気質   |      |       |        |       |       |
|-------|------|------|-------|--------|-------|-------|
|       | 育児行動 | 家事行動 | 接近と回避 | 順応性    | 気分の質  | 育児困難感 |
| 育児行動  | —    |      |       |        |       |       |
| 家事行動  | .16  | —    |       |        |       |       |
| 気質    |      |      |       |        |       |       |
| 接近と回避 | -.02 | .33  | —     |        |       |       |
| 順応性   | -.19 | .21  | .49*  | —      |       |       |
| 気分の質  | -.19 | .38  | .54*  | .75*** | —     |       |
| 育児困難感 | -.02 | .16  | .32   | .29    | .57** | —     |

\* :  $p < 0.05$     \*\* :  $p < 0.01$     \*\*\* :  $p < 0.001$   
Spearman の順位相関係数

表5 各変数の相関（母親）

|       | 気質   |       |        |       |      |       |
|-------|------|-------|--------|-------|------|-------|
|       | 育児行動 | 家事行動  | 接近と回避  | 順応性   | 気分の質 | 育児困難感 |
| 育児行動  | —    |       |        |       |      |       |
| 家事行動  | -.27 | —     |        |       |      |       |
| 気質    |      |       |        |       |      |       |
| 接近と回避 | -.00 | -.29  | —      |       |      |       |
| 順応性   | .12  | -.30  | .81*** | —     |      |       |
| 気分の質  | .31  | -.48* | .60**  | .61** | —    |       |
| 育児困難感 | -.15 | -.28  | .37    | .46*  | .39* | —     |

\* :  $p < 0.05$     \*\* :  $p < 0.01$     \*\*\* :  $p < 0.001$   
Spearman の順位相関係数

表6 各変数の相関（父親と母親）

|       | 父親   |        |       |      |       |       |
|-------|------|--------|-------|------|-------|-------|
|       | 気質   |        |       |      |       |       |
|       | 育児行動 | 家事行動   | 接近と回避 | 順応性  | 気分の質  | 育児困難感 |
|       | 育児行動 | 家事行動   | 接近と回避 | 順応性  | 気分の質  | 育児困難感 |
| 育児行動  | .12  | .28    | .32   | .07  | -.03  | .44   |
| 家事行動  | -.14 | -.38*  | -.18  | .09  | -.04  | -.15  |
| 気質    |      |        |       |      |       |       |
| 接近と回避 | -.24 | .42*   | .55*  | .48* | .63** | .34   |
| 順応性   | -.18 | .34    | .26   | .46  | .37   | .23   |
| 気分の質  | .05  | .63*** | .47*  | -.09 | .36   | .44*  |
| 育児困難感 | .20  | .23    | -.17  | .12  | .21   | .16   |

\* :  $p < 0.05$     \*\* :  $p < 0.01$     \*\*\* :  $p < 0.001$   
Spearman の順位相関係数

このうち、「気分の質」と家事行動との間に負の相関が示され、「気分の質」を評価する母親ほど家事行動は少なかった。また、育児困難感と「順応性」および「気分の質」との間には正の関連がみられ、「順応性」や「気分の質」を評価する母親は育児困難感が高かった。育児・家事行動と育児困難感の間には関連がみられなかった。

さらに、各変数が父母間でどのように関連するのかをみるために、各変数における父親と母親の相関を調べた（表6）。父親と母親の育児行動には関連がみられなかったが、家事行動には負の相関が示された。母親の家事行動が少ないほど父親の家事行動は多かった。気質のうち、「接近と回避」は父母間に正の相関が示されたが、「順応性」および「気分の質」にはみられなかった。また、父親の「接近と回避」と母親の「気分の質」、父親の「順応性」と母親の「接近と回避」、

父親の「気分の質」と母親の「接近と回避」にはそれぞれ正の相関が示された。育児困難感については父母間の関連がみられなかった。なお、父親と母親で異なった変数の間にいくつか関連がみられた。父親の家事行

動と母親の「接近と回避」および「気分の質」との間に正の関連が示され、母親が気質的な扱いにくさを評価するほど父親の家事行動は多かった。父親の育児困難感と母親の「気分の質」の間にも正の相関が示され、母親が「気分の質」を評価するほど父親の育児困難感が高かった。

なお、父親と母親の年齢、父親の労働時間は子どもの気質および育児困難感と関連しなかった。

#### IV. 考 察

本研究は、父親の育児・家事行動と子どもの気質、育児困難感との関連を検討することを目的とした。父親の育児・家事行動は、全体的に母親よりも少なかった。育児行動について平日と休日の昼夜ごとにくわしく調べると、休日の夜間を除いて父母間に差がみられた。父親が母親と同じ程度に育児行動をするのは、休日の夜のみということになる。2004年の「子ども・子育て応援プラン」<sup>16)</sup>をはじめ、政策的にも父親の育児・家事参加を後押しする動きもあるが、育児や家事の大半は母親が担っているのが現状といえるであろう。

##### 1. 気質と育児・家事行動

父親・母親ともに気質は育児行動と関連しなかった。子どもの気質的な扱いにくさと親の育児行動量は独立していることが示唆されるが、これについては子どもの月齢が関連していることも考えられる。幼児期における父親の育児行動は、“一緒に遊ぼうと誘ってくる”、“子どもは私になついている”といった、子ども側の態度によって促される<sup>17)</sup>。本研究の対象時期である生後4か月の時点では、幼児期のような明確な反応がみられないことが影響している可能性がある。あるいは、子どもの気質と育児行動との関連を別の要因が介在することも考えられる。Mehallらによると<sup>11)</sup>、気質と育児行動は夫婦関係満足度を介して間接的に関連をしていた。気質的な育てにくさを感じる場合でも、夫婦関係が良いと育児行動は低減されないかもしれない。

他方、母親の家事行動は「気分の質」と負の関連をした。子どもの泣きやぐずりが多いほど、母親の家事行動は少ないことが示唆される。家事行動を行う時、母親は子どもから離れて行うことが多い。泣きやぐずりが始まると、抱っこやあやしなどの対処が必要となり、子どもから離れることが難しくなるであろう。そのため、家事行動が制限されると考えられる。家事行

動の父母間の関連をみると、母親の家事行動が少ないほど父親はより多く家事行動を行っていた。このことから、母親が家事行動を制限された場合に父親が行う可能性も示唆される。

また、母親が子どもの気質的な扱いにくさを感じるほど父親の家事行動は多かった。子どもの扱いにくさを感じる母親を援助するために、父親は家事行動を行うのかもしれない。反対に、母親が子どもを気質的に“育てやすい”と感じる場合は、父親の家事行動は少ないといえる。子育て期の父親には「できるものなら家事はしたくない」という意識があり、家事の分担には配偶者との人間関係の要素が関連することが指摘されている<sup>18)</sup>。父親は家事に消極的であるが、母親の状態など必要に応じて家事行動を行っていると考えられる。

##### 2. 育児・家事行動と育児困難感

育児・家事行動と育児困難感との間には、父親・母親ともに関連がみられなかった。育児・家事行動は、育児に対する不安心性には左右されにくいことが示唆される。育児に対する不安が少ない父親ほど遊びに積極的に関わるように<sup>13)</sup>、育児困難感が少ないほど育児に関与することも考えられるが、本研究の結果を踏まえると、育児や家事などの日常的な行動は不安や自信のなさとは関係なく行われるものなのであろう。安藤ら<sup>19)</sup>や茂本ら<sup>20)</sup>によれば、育児困難感は抑うつ傾向のような精神状態と関連するとされる。育児困難感は物事の煩わしさや不眠、気分の落ち込みなどの抑うつ傾向として表れる反面、育児や家事のような日常的な行動レベルでは表れにくいものかもしれない。

##### 3. 気質と育児困難感

本研究の目的とは異なるが、気質と育児困難感における父母間の相違について検討を加える。気質に関しては、父親と母親それぞれにおいて3つの気質的特徴が関連しており、「接近と回避」、「順応性」、「気分の質」は共変関係にあることが示唆される。例えば初めての場所で機嫌が悪い子どもは、物事に慣れにくく、泣くことも多い子どもであると親に認知されやすいといえる。ただし、父親と母親とでは気質のとらえ方に若干違いがあるようである。気質的特徴に関して父母間の関連性を調べたところ、「接近と回避」には父母間に正の相関が示されたが、「順応性」と「気分の質」には示されなかった。このことから、初めての事態に



回避的な子どもの態度に関しては父母間の評価は一致しやすいが、環境の変化への慣れにくさや、泣きやぐずりについては父母間の評価が異なることが示唆される。また、父親の「接近と回避」と母親の「気分の質」、父親の「順応性」と母親の「接近と回避」、父親の「気分の質」と母親の「接近と回避」にはそれぞれ正の関連が示された。例えば、子どもが新奇な事態に抵抗していることを母親が認知するとき、父親は子どもの機嫌の悪さを認知しやすいようである。子どもの気質的な扱いにくさのとりえ方は父母間で一致する部分もあるが、同じ子どもであっても父親と母親とでは子どもの特徴のとりえ方に若干違いがあると考えられる。

気質的な扱いにくさと育児困難感との関連性をみると、父親の育児困難感「気分の質」と正の関連をし、母親の育児困難感「順応性」や「気分の質」と関連していた。父親・母親ともに泣きやぐずりのような子どもの扱いにくさに対して育児困難感を感じやすいといえる。また、母親は食事や睡眠の時間を変える、新しい人に会うなど新しい事態に慣れさせる場面でも育児困難感を感じやすいようである。日常的なケアは母親が多く担うことが影響するのかもしれない。

#### 4. 今後の課題

本研究では生後4か月の時期を対象としたが、子どもの成長とともに父親の育児参加は増加するという指摘もあり<sup>2)</sup>、今後は幼児期にかけて縦断的に検討していくことも意義深いと考えられる。また、父親の育児・家事行動には、夫婦関係や親の精神状態など子どもの気質以外の要因も指摘されている<sup>4)</sup>。どの要因が父親の育児・家事行動を促進あるいは低減するのか、複数の要因を組み合わせる多角的に検討していくことも必要であると考えられる。その際は、多変量解析等を行うことができるよう、対象者数を増やす必要があるであろう。

#### V. 結 論

1. 生後4か月時点において父親が感じる子どもの気質的な扱いにくさと、育児・家事行動は関連しなかった。母親が感じる子どもの気質的な扱いにくさは育児行動とは関連しないが、家事行動と負の関連をした。また、母親が感じる子どもの気質的な扱いにくさは、父親の家事行動と正の関連をした。父親の家事行動は母親が気質的な扱いにくさを感じる場合に

多いことが明らかにされた。

2. 育児困難感、父親と母親の育児・家事行動と関連しなかった。育児困難感、子どもの気質的な扱いにくさと関連し、父親の育児困難感「気分の質」と、母親の育児困難感「順応性」および「気分の質」とそれぞれ正の関連を示した。父親・母親ともに子どもの気質的な扱いにくさを感じるほど、育児困難感が高いといえる。

これらのことから、生後4か月における父親の育児・家事行動は父親自身が感じる子どもの気質的な扱いにくさや育児困難感とは独立して行われるが、母親が気質的な扱いにくさを感じる状況では、父親は家事行動を多く行うといえる。母親が感じる気質的な扱いにくさを父親がどのように受け止め、対処するかが重要といえる。

#### 謝 辞

調査にご協力いただきました各施設の皆様とお父様・お母様方に心よりお礼申し上げます。本研究の一部は、日本発達心理学会第21回大会にて発表した。

#### 文 献

- 1) 加藤邦子, 石井クンツ昌子, 牧野カツコ. 父親の育児にかかわり及び母親の育児不安が3歳児の社会性に及ぼす影響: 社会的背景の異なる2つのコホートから. 発達心理学研究 2002: 13: 30-41.
- 2) 菅原ますみ. 父親の育児行動と夫婦関係, そして子どもの精神的健康との関連—生後11年間の追跡調査から—. 教育と情報 1998: 483: 7-12.
- 3) 橘 千恵, 中村絵里子, 中島夕美, 他. 夫の家事育児行動の特徴と子どもへの愛着, 夫婦関係満足度との関連: 妻との比較. 母性衛生 2008: 49: 65-73.
- 4) Doherty WJ, Kouneski EH, Erickson MF. Responsible fathering: An overview and conceptual framework. Journal of Marriage and the Family 1998: 60: 277-292.
- 5) Thomas A, Chess S, Birch HG, et al. Appendix I: Illustrative cases and scoring. Behavioral individuality in early childhood. New York: New York University press. 1963.
- 6) Thomas A, Chess S. Temperament and behavior disorders in children. New York: New York University press. 1968.

- 7) 水野里恵. 乳児期の子どもの気質・母親の分離不安と後の育児ストレスとの関連：第一子を対象にした乳幼児期の縦断研究. 発達心理学研究 1998：9：56-65.
- 8) McBride BA, Schoppe SJ, Rane TR. Child characteristic, Parenting stress, and parental involvement：Fathers versus mothers. Journal of Marriage and Family 2002：64：998-1011.
- 9) Manlove EE, Vernon-Feagans L. Caring for infant daughters and sons in dual-earner households：Maternal reports of father involvement in weekday time and tasks. Infant and Child Development 2002：11：305-320.
- 10) 本保恭子, 八重樫牧子. 母親の子育て不安と父親の家事・子育て参加との関連性に関する研究. 川崎医療福祉学会誌 2003：13：1-13.
- 11) Mehall KG, Spinrad TL, Eisenberg N, et al. Examining the relations of infant temperament and couple's marital satisfaction to mother and father involvement：A Longitudinal study. Fathering 2009：7：23-48.
- 12) 川井 尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 育児不安に関する臨床的研究Ⅵ—子ども総研式・育児支援質問紙（試案）の臨床的有用性に関する研究—, 日本子ども家庭総合研究所紀要 1999：117-138.
- 13) 住田正樹, 藤井美保. 育児不安に関する研究—父親の場合—. 九州大学大学院教育学研究紀要 1998：1：79-98.
- 14) 小山里織, 森山雅子, 小林佐知子, 他. 父親の育児行動に関する縦断的研究（1）—プロジェクトの概要. 日本発達心理学会第21回大会発表論文集 2010：160.
- 15) 佐藤俊昭. 子どもの気質の追跡研究—第2報・日本語版 ITQ-R とその使用経験—. 東北大学教養学部紀要 1988：175-196.
- 16) 厚生労働省. 「少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画について」（子ども・子育て応援プラン）, 2004.
- 17) 森下葉子. 父親になることによる発達とそれに関わる要因. 発達心理学研究 2006：17：182-192.
- 18) 斧出節子. なぜ父親は育児をするのか？大和礼子, 斧出節子, 木脇奈智子, 編. 男の育児・女の育児—家族社会学からのアプローチ—. 京都：昭和堂, 2008：91-114.
- 19) 安藤朗子, 川井 尚, 武島春乃, 他. 父親の育児不安に関する基礎的研究Ⅱ—父親の育児困難感発生関連要因及び父親・母親の自由記述の比較検討—. 日本子ども家庭総合研究所紀要 2008：45：285-294.
- 20) 茂本咲子, 奈良間美保, 浅野みどり. 母親が認識する乳児の状態と育児困難感の特徴とその関連. 小児保健研究 2010：69（6）：781-789.
- 21) Gaertner BM, Spinrad TL, Eisenberg N, et al. Parental childrearing attitudes as correlates of father involvement during infancy. Journal of Marriage and Family 2007：69：962-976.

### 〔Summary〕

This study examined the relationship between child-care behavior, housework behavior, infant temperaments, and the feeling of difficulty associated with child rearing among fathers caring babies. A questionnaire survey was conducted on 31 couples having their first babies. The author conducted an investigation pertaining to child-care behavior, housework behavior, infants' temperamental difficulties, and the feeling of difficulty associated with child rearing in four months after childbirth. The relationship between infant temperaments and child-care behavior of fathers was not revealed. However, infant temperaments of mothers and the housework behavior of fathers were related. The feeling of difficulty associated with child rearing was not related to child-care behavior and housework behavior, however, was related to infant temperaments. Child-care behavior and housework behavior of fathers in four months after childbirth were not related to infants' temperamental difficulties and the feeling of difficulty associated with child rearing. It was suggested that when mother feels infants' temperamental difficulties, the housework behavior of fathers increase.

### 〔Key words〕

child-care behavior, housework behavior, infant temperaments, feeling of difficulty associated with child rearing, father